

平成29年度 第4回 静岡市多文化共生懇話会 会議録

- 1 日 時 2018年1月31日(水)19:00～20:30
- 2 場 所 静岡市国際交流協会 1階 第2会議室
- 3 出席者 多文化共生懇話会委員10名
小林 タバサ、全 高香、宋 亜茹、高畑 幸、スリヤ佐野 ヨハンナ 雪恵、
ホリウチ アリッセ イズミ、ニアズ アハド、福井 ユミ、吉野 恵津子、李 栄元

事務局、静岡市国際交流協会
- 4 傍聴者 なし
- 5 次第 (1)開会
(2)意見交換
議題: 提言ならびに多文化共生推進計画の見直しにむけたテーマの選定
(3)閉会
- 6 意見交換・発表内容

○ホリウチ会長

それでは議事に入ります。事前に郵便でお知らせしてありますが、本日の議題は「提言ならびに多文化共生推進計画の見直しにむけたテーマの選定」です。まず、事務局から説明をお願いします。

○事務局(望月)

今回の目的は、提言するテーマを絞ること。今まで意見をいただいたものをカテゴリーごとに見ていただいた方がわかりやすいのかな、とカテゴリーごとに分類された資料をお配りしています。その中でそれぞれのテーマを自分なりに決めていただき、テーマを絞ることが今日の第一の目的になります。

決まったらそれぞれのテーマについて、自由に意見を出し合ってほしいと思います。

前回の提言書をお送りしていますが、今回も4つぐらい大きなテーマを決めて、取組案(前回は3つくらいありますが)、具体的な案を作っていくのを、その後やっていただきます。これは提言に入れたいというもの、さらに議論を深めたいことを挙げてください。これまでと同じものはなかなか提言しにくいのですが、同じカテゴリー内でも取組案を変えて拡充するなどすれば、同じテーマでもいいと思います。そのあたりは事務局と会長で調整をして確認しますので、今日は自由な、活発な意見を出してください。

最後に全体スケジュールですが、この後5月、7月にまとめまして、8月には提言をします。あと2回で提言書をまとめていきますので、今回の懇話会で今まで言い足りなかったものをぜひ、ご意見いただければ嬉しいです。以上です。

○ホリウチ会長

それでは意見交換に移ります。まず、すでに配布された資料の中から、提言したい意見・内容を挙げてください。おひとり4つまでとします。資料に載ってなくても、提言すべきだと思う新しい意見がありましたら発表してください。全員の意見が出そろったところで、特に多く出された項目についてさらに意見交換をしていきたいと思います。

○高畑委員

提言するというのは、今この資料にあがっていることから、どれが一番大事だと思うか、を言えればいいですか？

○ホリウチ会長

はい、そうです。ではこの順番でよろしいですか。小林委員、お願いします。

○小林委員

自分が大学生ということもあって、一番身近な問題は留学生の問題です。今日配布されたカテゴリーごとの分類の「留学生」の項目1・2・3、を全体的に改善できたらいいな、と。あと「観光」の項目で2のハラルの食事の提供をもう少し普及できたらなと思います。「多言語での情報発信」の項目で7、図書館の外国語資料の充実化。その3つを、個人的に進められたらな、と思います。

○全委員

私の方からは、カテゴリーごとの分類の「防災」の2、町内会を通して地域の防災訓練への参加の呼びかけをしてほしい、というのが一点。二点目は「交流会」の11、外国人の生活や学習状況、悩みを知る機会が大切とありますが、外国人の人たちの生活を一般のふつうの日本人に知ってもらう活動ができればいいかな、と思っております。知ってもらいたい、ということです。それに関して、「多言語での情報発信」の10(6ページ)、広報誌に在住外国人のインタビュー記事を掲載、とあります。「これはちょっと難しいのでは？」という意見もありましたが、いろんな悩みを抱えている外国人の情報を日本人たちにも一緒に考えてもらえたら、広報誌のようなもので発信できたらいいな、と思います。

○ホリウチ会長

ありがとうございます。次、スリヤ佐野委員お願いします。

○スリヤ佐野委員

まず、1 ページの「人材バンク/ボランティア」の3、教育現場での英語教育を活性化するために外国語指導助手の資格を持たないネイティブスピーカーも活用したらどうか。です。また、これにつながりますが、もっと国際的な教育を静岡でできないか、何か具体的なことができたらい思います。その方法として、地域のネイティブスピーカーや英語を話す人たちの活用、とか。それに関して、「交流会」の8、図書館や学校、幼稚園でのいろいろな外国語の読み聞かせ。英語教育が小学校3年生でも始まるので、もっといろいろな形で実践できるのではないかとと思います。さらに英語教育につながりますが、「教育」の10、帰国子女や外国人の子供たちを完全に日本語にするのではなく、彼らを使って、学校の中で外国語をもっと教えることをやっていきたいとと思います。

もう一つは、4 ページの「教育」6、これはすぐにできそうですが、保護者達がメールやライン、電話で先生とコミュニケーションをとれると良い。学校のパソコンの問題や一人一人のアドレスの問題等が考えられますが、それはすぐに何とかできるとと思います。

最後ですが、「交流会」の9、姉妹都市以外の国でも静岡市の事業として、コンサートやイベントの企画をもっと取り入れることはできないか。ということです。以上です。

○ホリウチ会長

ありがとうございます。

○宋委員

3点提言したいと思います。一つ目は「交流会」の2、深い話（専門的なこと、興味のあるもの等）のできる交流会です。もっとお互いを理解する活動ができたらいいな、とと思います。

私は夏休みに同級生を連れて河南省のふるさとへ帰り、学校と交流したことがあります。

二つ目は、「交流会」の9、姉妹都市以外の国についても、静岡市の事業として取り入れることはできないか、ということです。こういうことは大事だな、としました。

もう一つは「多言語での情報発信」の7、外国語での雑誌、図書、DVDなどがもっと各図書館で増えてほしいです。勉強しているとき、中国語の資料や英語の資料を比較したい時、資料がない、と実感しました。これを提言してほしいです。

「観光」の2、ハラルやベジタリアンのために、料理の普及と、提供する飲食店の情報発信が必要だなとと思います。以上です。

○高畑委員

私からも2点だけ。一つ目は「防災」の5、地域の防災訓練に外国人の参加を促す。その場を交流の場としてバーベキュー等と組み合わせるのがすごくいいなとしました。こうした地域交流と防災の組み合わせを促していくこと。また町内会への加入もそこからつながるかな、としました。

2点目、「教育」の11、全体的に外国人増えているので、同時にヘイトスピーチや反感を持つ人が増えてくる可能性もあるので、なぜ外国人の人が日本でたくさん住んでいるのか、ということ

理解するような啓発の機会を増やす必要があると思っています。以上です。

○ニアズ委員

私の方からは「観光」の2、ハラルやベジタリアンの件。

「交流会」の9、姉妹都市以外の国でも静岡市の事業にならないか、ということ。また同じになつてしまっていますが、11の外国人の生活や悩みを知る機会を作る事も大事なかなと思います。

「教育」の8、学校給食の材料表記についてです。これからイスラムの人たち、学生も増えてきているので表記できればいいな、と思います。

最後に一つ、新しい提案ではないが加えたい。団地に外国人が入った場合、周りの日本人で受け入れたくない人がまだまだいます。この前親戚が団地に入りましたが、ひっこした当日、階下の住人の息子（この人物はそこに住んでいない）が「うるさかったらすぐ追い出すよ」と言ってきた。親戚家族のお嫁さんが怖がっていた。次の日の昼間、私たちも引っ越しを手伝ったが、昼間は何も言わなかったのに4時ころにやってきて、「なんでお前うるさくしてるの」と言われて、親戚が市役所に電話を入れたが、市役所の対応は何も言ってくれない。私たちは警察も呼んだが、警察も「何か事故があったら聞く。今の段階では話を聞けない」という。事故があったら遅いの。階下の住人が昼間に「うるさい」となぜ言うのか、それがわからない。夜の9時とか10時ならわかるけど、昼間12時とか2時に言ってくるのはなぜか。

こども支援の手続きをしているから、子どもがいることは市も知っているはず。子供たちには、何かあったら上の自宅に上がってくるのではなく、警察を呼ぶか市に電話をするように言った。一度くさい油を鍵穴に入れられたことがある。その時も警察を呼んだが、鍵を開けられたので「事故にはならない」と言われた。でも家の中にこどもがいたら怖いじゃないですか。

こういった状況にはどう対処してくれるのか。提案したいのは、市やまちづくり公社で特別な対応をしてほしい。まちづくり公社の人とも私は直接話したけど、県も市も人が住む町を作りたいのに、こういう人が一人いると話が広まってしまう。「こういううるさい人がいます」って。そういうところももっとしっかり見てほしいです。以上です。

○吉野委員

まず最初に「企業 / 技能実習生」について。日本語の講座に実習生を出すとその会社のポイントが上がって、次の年にはもっと多くの実習生を受け入れることができる、という法律が10月に改正になった。その関係で、講座に参加する実習生が一時的に増えるが、そのうち残業などで先細りになり、忙しくなってくると全く来なくなる。そのあたりの実態をわかっていないと。みんなは一生懸命勉強しようと思ってくるのに2回目からは来られないとか。最初のうちは会社の人が実習生を連れてくるので、「いい会社だな」と思っていたら、「ポイント制になったからなんだよ」と聞いたこともある。

今の日本は働く人、働く若者の人口も少ないし、その辺を補ってくれているのが外国の実習生だと思ふ。こういう実態を周りもきちんと考えて対応していかなければいけない、と思っています。

もう一つは、「交流会」の11、外国人の生活や悩みを知る機会を作る、これは絶対大切だと思ひ

ます。ただ、外国人の人たちがどこでどういう風になっているかわからないし、私たちもわからない。

先日ユネスコ講座で静岡大学大学院生の中国人マーさんにみかん講座をやらしてもらいました。ですが、宣伝をうまくしていなかったのも、すごい良い話だったのに来てくれたのはたったの12人。しかも全員日本語の先生という苦いこともありました。SAMEのチラシもどこに置いてあるかわからない、とよく聞きますが、ユネスコとしてももっとちゃんと宣伝すべきだと反省をしました。

ちゃんと宣伝して集まってもらえれば、そこで必ず30分くらいは話の内容に「今自分がどういうことで悩んでいるか」ということが入ってくる。啓発・宣伝する会、場所、そういう機会をもっと上手に活用できればいいと思います。そのためには広く、有効な宣伝活動をしなければならないけれど、啓発・宣伝してもそれを読んでくれる人は限られてしまうのかな、と悩むところです。以上です。

○李委員

李です。私の方からは「交流会」の10、様々な交流会を企画したらどうか。いろんな交流の場があると思いますが、生活に密着して気軽に入り込める「食」は非常にいいのではないかと。食を通じて、芸術や歴史等色々枝をはっていったらいいのではないかと思います。静岡では、私の知っている限りであまり「食」を通じた交流会は聞かない。入口として、そういうものを積極的にやっていたら、いろいろな国への理解が深まるのではないかと思います。

次に「自治会」の2、外国人も町内会に、です。必ずしも町内会に全員入った方がよいとはいえません。町内会費等、お金が発生することなので、入会は一概にはいえない。ですが、町内会に対する認識・理解をしっかりと持ってもらう必要があると思う。防災のこともあるし、ごみ出し、草刈り（参加できなければ罰金いくら、とういうところもある）等、みんなで協力してやらなければならないことを理解してもらい、きちんと案内し、もし言葉の壁があるならボランティアを活用してコーディネートすることが大事だと思う。

「教育」の11、学校教育の中で子供たちに外国人を理解させることは大切だと思う。親からの影響で偏見を持ったり、子ども同士の問題に親の影響が入っていたりとかが多々ある。学校という社会は、子ども達にとっていろいろなものを吸収できる場なので、ぜひ外国人に対する理解を含めて、偏見等育たないように、していただきたいと思います。以上です。

○福井副会長

いつも同じことになってしまうが、「その他」の4、外国人高齢者の問題。福祉手当だけでなく医療関係も色々問題があるのでそれも追加したい。外国人が知らなくて使えない福祉手当に私もよく助けに入る事が多い。

ここにはありませんが、SAMEが作った映像が無くなると聞いた。なぜなくなるんですか？非常にいいものなのに、残念です。

○ホリウチ会長

ありがとうございます。

私の方からは「防災」の2、町内会を通して地域の防災訓練参加の呼びかけをしてほしい。それに関連して、「防災」の1、企業からも、滞在期間が限られてる研修生に防災訓練へ参加するよう呼びかけてほしい。企業と町内会からの参加呼びかけが大切だと思います。

次に「自治会」の2、町内会は日本独自の文化なので外国人も入ることは必要、です。李さんからもお話しがありましたが、例えばブラジルには自治会がありません。彼らは何のために自治会に入るのか、意味が分からない。町内会でどういうことをやってるのかわからない。自治会の方から案内できないでしょうか。「自治会」の2にも多言語版「自治会・町内会への加入案内」の作成検討中、とありますが、ぜひ実施してほしい。やさしい日本語で外国人の自治会に対する認識を高められるような、わかりやすい案内があればいいかなと思います。自治会は身近でこんなことをしている、役に立つ存在、支える存在なんだとわかるものがよいと思います。

私は子供が生まれてから、地域を意識し始めました。近くに親も親戚もいないので、地域に頼らざるを得ない。町内会や子ども会(地域ごとに違いはあるが)に入ってからわかったんですが、夜着ている防犯灯は町内会がお金を払っている。近所の公園も町内会が管理しているし、ごみの管理、地震や火事などの災害時に近所同士で助け合うのも自治会であること等、わかりやすく伝えることをぜひ実施してほしい。

あと、「教育」も全体的に大事だと思います。以上です。

○ホリウチ会長

さて、いかがでしょうか。あとみなさんのほうから、何か意見があれば。時間はありますので。

○スリヤ佐野委員

どれも大切だと思うんですが、一番急ぐことを先に、優先順位をみんなで確認したい。マンション・アパートでのトラブルとか、みんなが安全に生活できるとか、災害の時に何をすればいいかわかるようにするとか。全部大切なので全部やればいいと思うんですが、一番急ぐことを選んでやっていかなければいけないかな、と。病気になった時にどこへ行けばいいか、高齢者の福祉の問題とか。急ぐことをよく選んで。

○ホリウチ会長

ありがとうございます。大体見た感じでは、「防災」「安全」…

○ニアズ委員

「防災」がメインだと思います。先週聞いた話ですが、市の防災訓練も、うまくいかなかったらしい。毎年やっているが参加する人はあまりいない。訓練では、誰が並ぶとか、取りに行くとか災害時の係を決めて、市から連絡を取り合うのだが、とても時間内に間に合わなかった。物流をどこへ運ぶかや、高齢者の関係等、災害時にはなおさらパニックになるから

時間がかかる。前もって、やっておいた方がよい。

○ホリウチ会長

一番に「防災」ということで…

○ニアズ委員

日本人もそうだけど、外国人はなかなか防災訓練には来ない。バーベキューやパーティ、学びながら面白くやれば参加者も増えるだろうと思う。

○スリヤ佐野員

つながるものがあると思うんですね。一緒にできるもの。町内会と防災、交流、自治会がひとまとめにできると思うし、その中でカウンセリングや助けもできると思う。教育も一つにできる部分が大きいのでは？

○ホリウチ会長

皆さんの意見では「交流会」が多かったですね。

○高畑委員

交流会も「交流会ですよ」、と喋ってくる人は限られる。すでに何かやっている集まりへ、多文化の要素を入れるとか。先ほど李さんから料理や食の交流の話が出ましたが、そもそも今料理を習っている人の中に入って行って、「新しい料理を覚えませんか？」と外国の料理を誰かが教えに行くとか、多文化と言わずに交流が成り立つ、という感じの交流の仕方を工夫をしてもいいかな、と思います。

○ニアズ委員

SAMEは以前、料理教室をよくやっていましたが、最近はやらないですよね？

○石黒

料理教室は、料理好きな方でいろんな国の料理を覚えたい、という同じ人が来てしまい、広がらないですね。難しいです。

○高畑委員

SAMEがセットアップする料理教室と、もう一つABCクッキングスタジオとかを使ってすでに習っている人を対象にこちらから行って、新しい料理を教える。「ブラジル料理を習ってみたい？」みたいな。料理スタジオはそこにあるので、よい意味での民間とのコラボもありかな、と思う。

○石黒

協会主催だと、協会を知っている人しか来ない。知らない人が増えない。街中のスノドカフェでは独自に外国の方と交流を持って SAME と同じようなことをやっている。街中のある場所に集まっている人たちに講師を送るのも一つの手だと思います。

○福井委員

何年前に静岡ガスで「世界で使っているガス」をテーマに料理講座をしながら、「お宅の国ではどういうガスを使っていますか？」と雑誌に載せつつやっていた時期があった。意外と人が集まらなかった。静岡は人集めにすごい苦労します。色々なところで色々やっているが、PR が下手なのか、何が下手なのかわからないんですが、どこでも苦労している。何をしたらいいのかは謎のままですが。私もスノドカフェで年に何回か「ライブ+料理紹介」をやらせてもらってる。来るお客さんはほぼ同じ。いろいろな場所を使いながらちょっとでも広げたいとは思いますが、むずかしい。

○吉野委員

ユネスコでも1年に一度世界の料理教室をやっている。今年はブラジル料理だったが、やっぱり人が集まらない。声かけたけど、結局全員日本語の先生。

○ニアズ委員

仲間同士が集まっちゃうんですね。

○吉野委員

そう、仲間しか声かけるところがないから。

○高畑委員

そもそも料理を習おうという人が少ないんじゃないかな。

○全委員

時間、ないですね。働いてる人が多いから。

○ニアズ委員

今、ネットでみんなできちゃうし。

○全委員

なにか催しに参加しようとするとき、静岡だけではなく、横のつながりから行きますよね。大きな催しより知ってる場所、人づてに聞いたところ。そこを考えてアピールの仕方を考えなければならぬ。

○高畑委員

学生さん同士だったらフリータイムが多いから、お互いに留学生と料理を作りあうこともあると思うけど、働いている人や子育て中の人を出かけて行って料理を習うと前後合わせて4時間近くかかるじゃないですか。気持ちはあるんだけど、実際にやるのは難しいですよ。

○全委員

以前、「町内会のサロンに参加して」という意見を出しましたが、よくよく考えるとサロンに参加できる人は時間のある人。私自身も行けるか行けないか、という感じ。かと思えば、子育て関係のサロンは人がたくさんいる。多分化共生を前面に出さずに、なにか別の具体的な目的（料理？）で集めてみれば…難しいですよ。

○福井委員

SAMEで外国人の問題を解決するための相談会を、先週の日に曜日専門家を呼んでやっていたが、相談に来る人は本当に少ない。片手だけで足りるくらい。問題がないわけではないのに、相談には来ない。ほかのところ、場違いなところでワアワアやっている。そこをどうつなげれば、外国人と日本人が住みよく、うまく持っていけるのか、悩ましい。

○全委員

大学の中を歩いてても、留学生は留学生同士、日本人学生は日本人同士、と固まっている。この横のつながりって難しいんだろなあ、と。ただ、先ほどのトラブルの話も日本人が聞けば心痛むと思うし、どうすればいいのか、自分には何ができるんだろ、と思う方もたくさんいると思う。

○ニアズ委員

先ほどのマンションの話ですが、まちづくり公社に問い合わせたら、以前の住人も階下の住人からクレームを受けて出て行ってしまったらしい。その人はまちづくり公社に1度しか言わなかったらしいけど。今回は何度も電話し、警察にも連絡してある。家の床にも分厚い絨毯を敷いたし、お父さんは仕事の関係で夜9時には寝る家庭。ずっと静岡に住みたいから子供にも言い聞かせている。遅い時間までうるさくすることはない。階下の住人は二人とも仕事をしてないらしい。ちょっとしたことが気になり、イライラするのだろう。でも何か事件が起きてからでは遅い。まちづくり公社も前もって冷静に相手に話をし、対処してほしい。静岡で事件が起こるのはよくない。私が「あなたがやっていることは差別ですよ、これ以上やったら、マスコミに流しますよ」と話した後は少し、静かになった。それでもその後も市役所に2回電話をしている。

こういうことがあっても、相談には来ない。何かあった時も友達や先輩、その国の代表に電話して、聞いてもらって終わりにしてしまう。相談会や先生のところまで話が上らない。友達等のネットワークはあって、情報もあるから以前のように困ってはいない。

○スリヤ佐野委員

提案は何もできませんが、日本で生まれ育った外国人としての感想は、教育がすべての問題に関係すると思う。

すべての問題の原因だと思いが、日本人が外国人に「外国人」というレッテルを貼っていて、日本人と外国人の間に壁ができています。「多文化」という言葉の中で色々なことをするんですが、すごく表面的でただの形、と小さいころから感じていた。私自身、色々な国際交流のイベントやキャンプにフィンランド人だからと行かされて、「握手しましょう」「歌うたいましょう」とすごく表面的。そういうもので解決される問題ではない。

知り合って一緒に普通に生活していく中で問題が起きて、ぶつかって、解決して行って、やっと一つになれる。もっとみんながぶつかって普通に接していかないと。いつも「外国人だから」と日本人は逃げてしまうので逃げないように「多文化」「国際交流」という言葉をなくしたい。無くしたらどうなるのか。放し飼いたい好きなようにやってください、普通に生活してくださいってなったらどうなるか。形とか組織とかが邪魔してるのではないかと時々思うことがある。不自然。形だけ、名前だけ。言い過ぎたかもしれないけど。

○ニアズ委員

最近マスコミも面白くやってるけど、いろんな国の違いとか取り上げすぎ。7時—9時のテレビ番組でやってるけど色々な国までいって、「外国人こんなところがダメ」とか。日本人にとっては面白いものだけど、深く考えると外国人にとっては差別化ともいえる。

○スリヤ佐野委員

外国人は物珍しいものだよ、って感じですね。

○福井委員

私が日本に来たばかりのころ、日本語もできなくて、電車の切符も買えなくて、ごみの出し方も何一つわからない状況でスタートしました。主人は純外国人の顔をしていたので、アパートに入った時周りの住民に「外国人が引っ越してきた」、という感じがあったので、できるだけ壁を低くしたいと、「私たち外国人ってこんななんだよ」とオープンな生活を心がけた。「しょっちゅうバーベキューします」と続けたところ、最終的にはバーベキューが始まりそうだな、という匂いがしたら隣近所がお皿を持ってくるくらいの仲になりました。そこまで行くにはかなり大変だった。最初のうちは、引っ越しの挨拶をしなければいけないんだとか、なにを持って行っていいかわからないので、逆に外国人っぽい感じを出そうと、南米の手作り料理を持って挨拶に行ったりしました。年配の人が多かったので、最初のうちは「こんな料理食べれない」、と思われていたと思います。でもそのうち日本の昔の人たちなんだな、と思えるようなことがあって。子ども達が早く学校から帰ってきて私がまだ帰宅してなかったときに、おじいちゃんおばあちゃんたちが「うちに入って遊んでていいよ」と言ってくれたりした。昔の日本のいいところが、まだあったんだな

あ、と感じることができた。交流の仕方を両方にうまく、外国人側からも「差別されるかも」、と
思いながら入っていくとそういうふうに壁を作りながら入っていく。逆に日本人側からも「外国人
が来た」と構えちゃうから壁を作ってしまう。そこをどうやって壁を低くしながら、生活できるの
か。と私たちが経験したことをもっといろいろな場所で教えてあげたいな、と思いながらそういう
機会は難しいなと感じています。

うちは主人がミュージシャンなので音楽をやる家庭です。引っ越した時、隣近所一軒一軒に
「楽器の練習をします。音が出ます。大家さんから夜7時までは許可をもらってます。」と伝えま
した。すると家庭によっては「子どもがいるので、この時間だけはやめてもらえますか。」と言っ
てくるところもあって、「その時間は、こちらも気を付けます」と話し合いがうまくできました。
3回引っ越しましたが、3回とも同じようにできたな、と感じています。

外国人側の目線で見ると差別されたということもすごくあるかもしれないけれど、そうなる前に
私たち外国人も受け入れてもらえるような何かを提示できるように、同じ国の人に来たときに「こ
うした方がいいよ」とアドバイスをしていける人たちを増やしていきたいな、と思います。

○吉野委員

27年前に、日本語を始めた頃はそういう偏見を持った日本人って多かったと思うんですよ。でも、
今まだそんな偏見があると聞いてすごく悲しいです。団地の入居のトラブルは、日本人同士でも
高齢者が静かに住んでいるところへ小さな子供がいる家庭が入って、泣いてうるさいと言われる
苦情は日本人同士でもよくあることです。日本人同士でもあるよ、と言いたい。いまだにそういう
偏見があるって話を聞いてすごく悲しい。どうしていいかわからない。

○福井委員

すごく難しいな、というのは私も日本へ来て20年経つんですが、思います。楽といえば、楽な
んですよね、わかってくれる人たちの側によって、わかってくれる人たちへ向けて常に発信をして
しまう。そこが間違いなのかもしれない。結果、歩み寄って、理解してもらって、「ああ良かった」
と思えることばかりやってきているので、広げることがなかなか難しい。

イベントなどでも同じで、いつもと同じような人たちに声をかけているのがわかっていながら、
断られるのが怖いから、簡単に、知りあいのところへ声をかけてしまう。自分でもわかっていなが
らやってしまうんですよ。

○高畑委員

今外国人増えているし、これからも増えてくる。片や日本人は高齢化しているから、若い外国人
と年配の日本人、という地域がこれから増えるはずなんです。外国人がまだ少ないうちは、日本人
というか日本生まれの日本育ちの人たちも「自分たちはマジョリティ」だから心配ない。だけどこ
の先、外国人の方が若くて元気、人数も多い。日本人の方が力が弱い、少ない。となったら、不安感
を持つ人が増えてくる。それに伴って外国人への差別的な態度(本人はそんな気持ちではなくても)
をとる人は増えてくる。そういうことを想定して、日本生まれの日本育ちに向けて啓発をしなけれ

ば。今の日本は外国人が多いのは当たり前なんですよ、外国人の力を借りて今の日本が何とかなってるんですよ、と。子ども達に向けてもそうだし、大人向けにも必要かな、と思ってます。

○ニアズ委員

大人向けが一番大事ですね。自分の経験ですが、免許センターで切り替えの試験の時に、ある先生（定年退職後に免許センターに就職したと思われる）に「なんで外国人がこんなに免許を取るんだ？」と質問された。「それで議論すると5時間かかるんですけど」と前置きして、「私がここに来なかったらあなた仕事ないでしょ？」と簡単に答えた。すると相手は「あなた日本語うまいね。」と態度が変わった。普段の仕事の中で外国人がたくさん来ているから、「めんどくさいな」という感覚が当たり前になっている。その人たちの理解がないと、若い人の理解もなかなか得られないと思う。

また、免許センターの一人の先生は外国人に対して厳しいといううわさがあったが、外国人に対してだけではなく日本人にも同じようにやっていただけだった。外国人が「外国人への差別？」と勘違いしていたのである。

小さなことだけど、近所づきあいが一番大事。引っ越すたびに、その周辺の夜の店、床屋、歯医者等近所の店に行けば、近所の人たちに外国人が住んでいると認知される。すると対応も全然違う。町内会に入るのに200円、300円かかるが、名簿に名前が載ると町内の人に知ってもらえる。町内会の名簿を見て、バン格拉デシュについて知りたいと近所の人を訪ねてきたこともある。興味のある人はいるんですよ。やはり町内会には入った方がいいと思います。

○福井委員

町内会に入った方がいいと思います。ただ、町内会費は理解してもらおうのが、むずかしいかな、と。うちのところは公民館を建て直したので年に一度、プラスアルファで払ってる。その金額をいきなり請求されても、「ええっ？」と感じる。こういう事例では理解がないとかなり難しいかな。

○高畑委員

日本に長くいる人は町内会も入ると思うけど、留学生とか技能実習生、は1年ごとに引っ越したり、移動が激しいので町内会に入らずに終わっちゃう人もいると思う。しかし定住していく人たちには地域のつながりが災害の時に大きな助けになるということを、最初にわかってもらわなければならない。役所に行って外国人登録するときにDVD見せたりとか、機会をとらえて知らせていくのが大事かな、と思いますね。

○ホリウチ会長

そろそろまとめた方がよろしいでしょうか。どうでしょうか。

○事務局（望月）

とりあえず言いたいことを出してもらって、今日出た意見をまとめて、次回提案させていただき

ます。またそこから議論を積んでいただいて、プラスの提案ができればいいかな、と。今日の話の中で、地域交流とか、防災を絡めるとか、自治会、近所づきあいとか色々出ましたので、そこらへんを組み合わせたものを会長と事務局で調整して、項目を整理したいと思います。

○ホリウチ会長

皆さんの方から何かありますでしょうか。

○スリヤ佐野委員

教育も防災、安全、医療に関係ありますよね。言葉が通じないと始まらないので。日本人がもっと外国語を勉強できるように、そして、外国人がもっと日本語を勉強できるようにしないと何もできない。

○ホリウチ会長

そうですね、まず言葉ですよね。

○高畑委員

言葉の壁はない、という前提で考えてもいいと思うんですよ。少なくとも日本語を聞いてわかる人は多いし。日本人も、学校の英語の時間が増えているので簡単な英語でコミュニケーションがとれる中学生、高校生が増えてきたと思う。私たちが子供のころよりも。必ずしも言葉は完璧である必要はないし、英語はネイティブスピーカーである必要もないと思っている。共通言語であれば、何らかの形で伝えられるようコミュニケーションツールを探していく、そういうスタンスで考えたらいいのかなと思いました。

○ホリウチ会長

わかりやすい日本語とか。

○高畑委員

そうですね、やさしい日本語でもいい。

○スリヤ佐野委員

あと簡単な英語。基本的な英語を扱えるようになれば、コミュニケーションが取れる。学校でも簡単な英語を先生たちも使ったりとか。

○全委員

大きな目的を一つポンと持ってくるのが一番で、そこから派生して、ことばはツールと考えたほうがいい。ことばを目的を持ってくると難しいので。そういう意味でも、今回「防災」は誰にとっても大事だと思う。防災に関する言葉（英語でも日本語でも）みんなで同時に学ぶのもいいと思う。

大きな目的をまず持つてくるのがいい。

○高畑委員

そうですね。言葉を難しく考えると、そこから先に進めなくなってしまうんですね。

○全委員

町内会に関しても、静岡はまだ活発ですけど、葵区の中の近辺はもう町内会はほとんどない。私自身、町内会入会の目的は「防災」とうちの子どもをご近所の人に知っておいてもらうことだった。防災のために自治会や町内会を（言葉は悪いけど）ツールとして、コラボしながらつなげていければいいかな、と思いますね。

○高畑委員

「生活」という言葉ひとつにしても、大学生の生活とファミリーの生活は違う。それによって地域とのかかわり方も全然違ってくるので、多文化共生って、どの年代の人に向けるのか、ターゲットが難しい。今の話題は年寄り向けなので、若い人には「は？」という感じだと思うけど、一方で「たくさんの留学生が来なくなる静岡市」、これも大事。ハラール食とか留学生がもっと安く住めるようなところとか、そういうのを提言のうちの柱にするのもいいと思うんですよ。

○全委員

小・中学校では地域の防災訓練に子供たちを行かせて、参加証明のハンコをもらってこさせるんですよ。そこで子供たちはケガ人の役とかやってくる。留学生もそういう形で参加させてもいいのでは？

○高畑委員

留学生は学校でまとめて防災訓練をやっているんですね。

○ニアズ委員

ことば学院は毎年一回、八幡の公園で独自にやっていますね。

○高畑委員

バイトとかもう少しやりくりしてもらって、地域の防災訓練にも参加できるといいんですけどね。

○ニアズ委員

ことば学院の場合は、学校の時間の中でやっているのだから地域の人は入れない。地域の町内会も入って一緒にできると、そこで知り合いになったり、普段も挨拶をするようになっていいんですけどね。

○ホリウチ^{かいちょう}会長

そろそろ^{じかん}時間ですので、^お終わりたい^{おも}と思います。^{ゆういぎ}有意義な^{いけん}ご意見ありがとうございました。

以上